

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“地域で”という言葉には表していないが、利用者がその人らしく暮らすために、スタッフ全員で話し合い、理念として共有しているものがある。その中の「共に暮らす幸せ」は「地域と共に」という意味も含んでいる。	<input type="radio"/>	地域密着型サービスの役割を再検討し、理念への反映を話し合っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「理念」を見やすい場所に掲げ、利用者一人一人が“その人らしく暮らす”ということを、常に考えている。利用者、家族の意向を意識しながら、“その人らしい死”を迎えるまでを支援する取り組みをしている。	<input type="radio"/>	“その人らしく暮らす”ということは、(その人にとって) 地域とは無関係であるわけがなく、今後も、死を迎えるまで理念の実践に努めて行く。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者の家族の筆による理念を、玄関に掲げ、ホームを訪れた人の目に触れ易いようにしている。また、当グループホームを紹介するパンフレットにも明記し、入居希望者の面談時に利用すると共に、理解をいただく資料にしている。	<input type="radio"/>	現在入居中のご家族に対しても、また、須坂市民の皆さんにも、機会を捉えては、当ホームの理念を浸透させていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の保育園、小中学校の子供達との交流は続いており、利用者も楽しみにしている。高校生やその他のボランティアの人達も日常的に出入りしているが、残念ながら、隣近所付き合いが、気軽に出来る環境にない。	<input type="radio"/>	当グループホームの特徴でもあるが、重度化した利用者も多く、対人関係がなかなか、作り難い状況にはあるが、気軽に立ち寄ってもらえないなら、こちらから出向く機会を多くして見たい(散歩、公共施設、食堂)。その際、職員から出会った人達に声をかけるという習慣を作っていく。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事へ参加することと言えば、保育園の運動会がある。保育園との交流の一環だが、地域の一員としてという意識ではない?	<input type="radio"/>	お祭りの獅子舞いを見物に行き、地域の雰囲気を感じて見ることも大事。何かホームとして担えるものがないか、利用者と共に考えて見たい。

グリーンクリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	須坂市主催のセミナーに講師を派遣、市民の認知 症への理解のために、お手伝いしている。また、 地域の認知症お年寄りに対し、入院中の空きベッ ドを利用し、短期入居を実施し、職員全員で介護 に努めた結果、ご家族から大変感謝された。	○	今後も当グループホームとして、地域に向けて何 が出来るか、何が出来そうかを検討して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価のねらいや活用方法を理解し た上（制度上のことも含め、ホーム長の講義を受 けている）、職員全員が関わって、自己評価して いる。外部評価の結果には、大いに関心を持ち、 具体的なケアの質の向上に取り組んでいる。	○	今回の評価を受けて、より質の高いケアを目指し たい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	会議開催の数は多くはないが、利用者やグルー プホームのサービスの現状等を報告、また、委員の 方に、ホームの行事に参加してもらうことで、理 解を深めてもらうこと、更に、委員の方の率直な 意見をいただいて、質の向上に役立てている。	○	職員は運営推進委員の方と、もう少し馴染みの関 係になり、身近な課題について、ざっくばらんな 意見交換が出来るようになれば良い。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	現段階で、サービスの質の向上に向けて、市町村 と共に協力して取り組んでいることはないに等し い。	○	運営推進会議での協力関係に止まらず、今後は直 面している課題についても積極的に話し合っ て行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、職員の一部は地域権利擁護事業や成年後 見制度について研修を受けている。今まで2名の 利用者が成年後見制度を利用し、3名の方が地域 権利擁護を利用した。可能性のある家族に対して は、制度の説明などを行い、活用を勧めている。	○	今後も更に機会を捉えて、制度の勉強会を実施 し、理解に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	管理者、職員の一部は高齢者虐待防止関連法につ いての研修を受けている。当グループホームで は、虐待について、お互いに意見を交わす機会を 作る（朝礼など）と共に、勉強会のテーマとし ても取り上げ、虐待を行ってはならないことを、 全員で確認している。	○	理解したから、終了というものでない。今後も、 虐待の防止をテーマに勉強会を行い、虐待防止を 実践して行く。

グリーンクリスタルTWO

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約に際して、書面を読むだけでなく、分かり易い言葉に置き換え、十分な説明を加えている。ご家族の不安や質問には丁寧に答えている（特に病気やターミナルについて）。ご家族に応じて個別の対応で、納得の上、手続きを進めている。尚、複数の兄弟等がある場合は、なるべく全員が出席できるよう、お願いしている。	○	ご家族の考え方に行き違いがないよう、今後も複数ご家族同席の上、一連の手続きを行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お茶を飲みながら、話し合いが出来る雰囲気の中で、様々なテーマで会話される。中でも食事の献立については、色々意見を出してくれるので、生活の中に活かし易い。また、重度化した利用者に対しても、声をかけ、その表情などに注目することで、ホームの一員であることを認め合っている。	○	利用者の会話の中のヒントを見逃さないようにし、本人の提案や希望を活かす（実行する）ことで、信頼関係にも繋げて行く。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的な報告手段としては月1回発行するグループホームの「ふれあい通信」があり、主に写真による生活風景を紹介している。ここでは新入居者の紹介や職員の紹介もしている。連絡事項等に関しても掲載している。金銭管理については、領収書を添えた上での残高照会を行っている。健康状態に問題が生じた場合は、電話で状況報告の上、ご家族の意向を確認している。ご面会家族との面談は報告と意見交換の機会と心得ている	○	ご家族との信頼関係を継続して行く意味でも、きちんと報告して行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情受付窓口とその責任者名が、文書に明記されて、玄関壁面に掲示されている。また、玄関には「ご意見箱」を設置し、相談及び苦情を気軽に言ってもらえるようにしている。相談・苦情受付窓口に関して、契約時にも説明、外部の機関も照会している。	○	只構えていたのでは、積極的な意見は得られない。何ら小さな事でも気軽に話し合える関係作りが必要と考える。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	当グループホームでは月1回のスタッフ会議が開催され、そこに管理者も同席する。抱えている問題に対し、話し合いが持たれ、当然、優れた意見は採用される。加えて、管理者の意見を押し付けることはない。	○	スタッフ会議に参加出来なかったスタッフに対しては、議事録を参照してもらい、本人の意見も発言は出来るのだが、課題は突然出現するものであり、日頃から、運営者、管理者、職員間の風通しを良くし、意思の疎通を図って行くようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	病状の悪化など、利用者の状況変化に伴い、必要なケアが確保出来るよう、勤務時間帯の変更は可能である。そのための話し合いは、必要が生じた時に行い、即、調整が行われている。	○	今後、更に調整の必要性が生じるものと予測される。職員間の相互理解の上、協力体制進めて行く。

グリーンクリスタルTWO

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者と職員の馴染みの関係について理解している。職員の異動についての配慮はあるが、止むを得ず退職者が出た場合は、新人職員と他の職員がダブルで勤務し（慣れるまで）、きめ細かいフォローを行い、利用者を与えるダメージを最小限に抑えている。	○	働きやすい職場環境作りに努め、極力退職者を出さない。また、運営者側には、グループホームの「馴染みの関係」について、更なる理解を得たい。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護に際し、その難しさは実感しているところである。外部の研修に対しては、ここに勤務する職員全員が、研修の機会を与えられることを目標に、職種、経験年数、希望等を考慮して、調整している。研修を受けた職員は、伝達講習という形で、他の職員に還元している。複合施設全体の研修や、月1回のホーム内の勉強会も行っている。	○	広く情報収集して、研修の場を確保し、参加出来る機会を多くする。また、ホーム内の勉強会には、ホーム長が企画するのみならず、職員が積極的にテーマを選択、発表の機会に当てる。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム介護支援専門員の勉強会は実施されている。地域同業者のネットワーク作りに関しては、多数のグループホームの参加を得て、すでに数回の会合を持ち、情報交換の場としてスタートしたところである。職員は他グループホームを訪問し合い、評価を加えつつ、学ぶべきものは学ぶという姿勢を持っている。	○	同業者同士の交流が単に情報交換で終わらないよう、今後は総合評価、勉強会の開催などを通して、交流して行きたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	複合施設全体では、月に数回、足心療法（マッサージ）を取り入れており、誰でもが利用できる。職場の忘年会、暑気払い、歓送迎会はストレスを発散できる機会である。日頃から、職員間のコミュニケーション作りを心がけ、「言いたいことが言える」環境の中で、日々のストレス解消を図っている。	○	職員のストレス解消法は、これで十分ということではなく、職員の個性もあり、解決方法も個別のため、相互理解に努めていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者は、個々の職員の勤務状況を把握し、評価している。その評価が各職員の向上心にも反映され、殆どの職員が介護福祉士の資格を修得していて、ケアに活かされている。しかしながら、正当に評価するためのツールが現在不確実である。	○	職員の実績や努力を正当に評価する仕組みを採用し、向上心を持って働ける職場環境を整える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を前提の相談（面談）時には、必ず本人に会い、本人から話を聴くようにしている。また、面談時の様子を観察する中で、本人の困り具合や不安などを汲み取るようにしている。さらに、本人の不安を考慮して、在宅訪問して面談を行っている。	○	空室が出来たからといって、対象者を急いで入居させる手順は避け、本人の意向を尊重の上、馴染んでもらう方法を優先して行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時には、ご家族の不安や困難さをしっかり聴いている。特に複数兄弟があるご家族に対しては（家族間の思い違いがないように）、事情が許す限り、全員の方の話を聴くようにしている。	○	初期の段階から、グループホームでの本人の生活を支えるのは、ご家族と職員更には地域の人達で協働する必要があることも、理解していただく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人とその家族が必要としている支援を見極めた上で、当ホームで対応出来るものについては対応に努め、そうでない場合は、複合施設内の在介や老健、特養などの相談員を巻き込み、サービス利用に繋げたり、アドバイスをしている。	○	グループホームの横のつながりを強くし、それぞれのホームでの、利用者の受け入れ状況が、把握出来るようにする。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当複合施設内ケアハウスのグループホーム待機者に対しては、本人の都合に合わせ、ホームで過ごしてもらい雰囲気に慣れてもらうことをしている。利用が決まった本人に対しては、日中をグループホームで過ごし、不安が強い場合は、夕方自宅に帰る（翌日再びホームに戻る）など、ゆっくり馴染んでもらう配慮をしている。	○	認知症対応型サービスの事業を導入し、地域の認知症の方を受け入れることで、馴染みの関係を作る。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にもある「共に暮らす幸せ」とは、本人も他の利用者も、職員も共にという意味であり、いつも一緒に、笑ったり、怒ったり、頼んだり、頼まれたりの日々を過ごしている。信頼関係に基いたもう一つの家族とも言える。	○	職員は共に支えあう関係を理解し、利用者一人一人の持てる力を認め、主役になれる場面作りをして行きたい。

グリーンクリスタルTWO

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況は、ホームのふれあい通信でご家族に知らせ、生活の変化や発病については、都度報告して、ご家族の意向を確認するのみならず、ご家族がいつでも本人に面会できるよう、面会時間の制限はしていない。本人が望めば、家族の宿泊も出来、ホームの食事を一緒に食べてもらうなど、本人と家族の絆を深めてもらうことも。また、職員と家族の良好な関係作りを心がけ、共に本人を支える立場であることを確認しあっている	○	本人を支えるのは、家族であり、職員である。本人を中にして、双方が対等に関わる姿勢が望ましい。今後も機会を捉えては、ご家族とは確認し合いたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居に至るまでの間の、ご家族と本人の関係を理解した上で、その修復も支援している。ご家族には、本人の認知症を理解してもらい、共に支えるという立場から、必要な報告や依頼を発信し、本人とふれあう機会を、多く持つためのきっかけにしている。ご家族それぞれの分担（役割）は基本情報として共有している。	○	本人にとって、ご家族はかけがえのない存在、何時でも如何なることがあっても、逃れることの出来ない関係であることを、ご家族に理解してもらう。職員は本人とご家族をしっかりと支える。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人がこれまで暮らして来た中での人間関係や、馴染みの場所などは、入居前の面談で把握している。ホームの外出の際に寄り道することもあるが。墓参りや自宅での宿泊で友人とお茶を飲んだり、行きつけの店で買物をするなど、ご家族の協力を得て行っている。	○	職員は情報を共有して、馴染みの関係を途切らせない工夫をして行く。
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者はそれぞれにお互いの状況（病気が重い、足が悪い、混乱しているなど）を理解しているように思う。お互いに慰めあっている場面を目にすることもある。できる人が出来ない人にお茶を入れたり、下膳する。職員はさりげなく傍にいて、程よい関係を見守っている。	○	重度化で孤立することのないよう、職員は他の利用者と共に配慮して行く。
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期間の入院、遠方の家族の計らいで、近くの施設へ転居、死亡などで契約を終了した人が数名ある。それぞれその人が新たな場所で生活する場合は、必要な情報は提供するものの、その後の関係が継続していない。	○	死亡に関しては、その後のフォローを（勉強会のテーマとし）検討して行きたい。その他のケースでは、退去後も「ふれあい通信」の送付や、夏祭り、家族会に招待するなどの方法で関係を継続して行きたい。その中で、課題が生じた場合は、相談に乗る姿勢を示して行く。

グリーンクリスタルTWO

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時に入手した情報を基本情報（センター方式）として職員全員が共有しているが、日頃関わる中で、会話や表情などを通して利用者一人一人の暮らしへの思いや希望を汲み取るように努めている。さらに汲み取った情報を共有している。	○	汲み取った思いや意向を共有するだけでなく、その実現に取り組む必要がある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面談時に入手した情報を基本情報として職員全員が共有している。その人の生活歴や暮らし方、生活環境を知ることは、ホームでのその人の生活を支援する上で、大変重要なことなので、自宅を訪問して更なる理解と把握に努めている。	○	入居後に知り得た情報についても、基本情報に追加し、本人の理解を深めている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしく暮らすために、一日の暮らしを通して、全体的な把握に努めている。特に持っている能力や、出来そうなことに注目し、日々の生活に活かせるように配慮している。	○	暮らしの現状把握は一日のみならず、1週間、1ヶ月、1年の単位で変化を捉えて評価して行けるようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、チーム全体でアセスメントを行い、課題を抽出し、ケアに対する意見を出し合っている。本人、家族の意向も確認した上で、必要に応じて主治医の意見も介護計画に反映させている。	○	年々、利用者の重度化や、医療のニーズが高くなっていることから、療養に焦点が合った介護計画になりがちである。重度化しても、持病を抱えていても、その人らしく暮らすための介護計画を心がけて行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的な見直しを基本としているが、本人の状況に変化が生じた場合は、期日前に見直しを行い、新たに介護計画を作成している。その際、状況の変化についてはご家族にも伝える。短期日で解決すると思われる課題に対しては、別途、短期（1週間程度）介護計画を作成している。	○	より良い計画作成のため、介護計画に至るまでのプロセスを現在再検討中である。短期の介護計画は、カンファレンスの結果を、職員が共有する必要があることから端を発したものだが、医療面では例えば、喘息発作のリスクが高い人に対して、発作時の対応などについても、書き込んでいたが、更に工夫を重ねて行きたい。

グリーンクリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の生活パターンを入れた個別の記録用紙を使用している。日々の生活や健康に関する様子を記入し、介護計画の見直しに活かしている。	○	記録し易く、情報把握のために見やすいものを検討中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人が入院した際の身の回りの世話、本人が外来受診する際の送迎及び診察時の付添いなどを、グループホームとして引き受けている。また、入院中の空きベッドを利用したショートステイを事業として開始した。その他、複合施設内の他事業所ショートを利用中の認知症利用者に対し、落ち着いて過ごしてもらえるよう協力している。	○	今後も検討を重ね、認知症対応型デイサービス事業を開始したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	保育園や小学生の子供達によるボランティアの他に、定期的に個人に関わるボランティアが2名いる。離設の不安があり、警察に協力を依頼し、防災訓練では消防の協力を得ている。ホームの外出機会に、美術館、公園、レストランを利用しているが、それぞれに各施設の協力を得ている。	○	通年、当たり前のように出入りしてくれるボランティアを開拓して行きたい。また、協力施設の開拓も考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要になった福祉用具について専門員に相談している。また、個別にマッサージ師の往診治療を取り入れたり、他事業所の理学療法士によるリハビリを実施している。	○	自宅で外泊する場合の、ホームヘルパー派遣などの対応を、地域の事業所と検討して見たい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとは、運営推進会議に出席を依頼していることから、今後の協働については、話合うことが可能である。	○	運営推進会議開催の折、どのような場面で協働が可能か、話し合いを持ちたい。

グリーンクリスタルTWO

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、主治医選択は本人であり、ご家族であるが、結果的に、ご家族同意の上、当グループホームの協力医を主治医とするケースが殆どである。ホームの看護師と主治医は、必要に応じてFaxやTelで連絡を取り合い、随時、適切な対応に努めている。定期的診察の他、病院受診などの対応も主治医と相談の上、行っている。	○	ターミナル時の対応もあり、今後は更に、利用者、ご家族に納得してもらえよう、医療との連携に努めて行きたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が認知症理解のため勉強している。かつて、現利用者の主治医だった精神科医とは、色々相談に乗ってもらった経緯があり、必要が生じた場合は、依頼するつもりであるが、現段階での関係は途絶えている。	○	主治医とも意見交換しながら、早急に確保出来るようにして行きたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当グループホームにはDMや骨折後遺症、喘息など、医療系の支援を必要としている人が多い。各ユニットに1名ずつの看護師が配置されていて、緊急性を考慮した体制も出来ている。日常の利用者の健康管理については、日々、必要に応じて、相談が可能である。また、看護師による疾病の理解のための勉強会も行われている。	○	医療のニーズに答えるため、また、利用者の多くが当ホームを“終の棲家”とすることを希望しているため、看護師を中心に不安のない対応を心がけて行きたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院中は、職員が交代で病院に出向き、病状の把握をしている。病院職員との情報交換に努め、入院中から、退院後の対応方法について検討し、ホームでの生活に備えている。	○	認知症を持った利用者にとって、入院することは、退院後のホームの生活に、大きな影響を与えるものであるから、今後も入院中から本人の支援を大切にする。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルに関する指針を作成している。本人の体調の変化の把握に努める一方、終末期の希望などは、入居時にご家族の意向を確認、更に段階を追いながら、意向の変化を確かめている。主治医にはご家族の意向を予め伝えてあるが、ご家族がいつでも医師の説明を受けられるよう、手配している。職員は常に、本人にとっての最善の終末期を話し合い、方針を共有している。	○	実際にターミナルを迎えた時、ご家族の思いは揺れ動いているものと推測する。その時々を思いをしっかりと受け止め、ご家族、主治医、職員は情報の共有に努める。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	昨年は2名の利用者を見送った。職員は、当グループホームで出来ることを確認、ご家族も納得の上で、本人が安心して過ごせる環境などの配慮に努めている。主治医、ご家族とは連絡を密にし、特にご家族に対しては、充分納得した看取りが行えるよう、アドバイスもしている。職員は常に状況を的確に捉え、判断できるよう、看護師が中心となり、カンファレンスを行っている。	○	当グループホームで「出来ること」を精一杯行う。夜勤の職員が一人で悩むことのないよう、看護師を中心にカンファレンスを行い、状況に合わせた対応方法をターミナルケアプランに明記し、安心して勤務出来るようにする。

グリーンクリスタルTWO

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい場所です生活するにあたって、混乱を最小限に抑え、早く落ち着いた暮らしをとり戻すために、基本情報や現在の生活の様子、健康状態などを整理し、口述のみならず、書面で（今後介護に携わる人に）渡している。また、本人を理解してもらうために、センター方式による基本情報も添えている。	○	新しい生活場所での介護者と、本人のことに関するあらゆる課題について、継続的に相談出来る関係を作りたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者に対し、一人の人格者として尊敬の念を持って接している。「お年よりのあるがままの姿を受け入れ、お一人お一人がのびのびと心安らかに暮らせる・・・」の理念を実践するために勉強会を行い、質の高いケアを目指している。また、個人情報については、ガイドラインに沿って理解をしている	○	人権に関すること、個人情報保護法に関することは、今後も勉強会を行い、知識として理解するのではなく、仕事上で実践して行く。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が何をしたいのか、どこに行きたいのか、何が食べたいのか、職員は、本人が自ら選択し発言できるように働きかけている。時には利用者同士が相談し合う場面を目にすることもある。理解が難しい利用者に対しては、選択肢を用意して、分かり易い説明を加えている。	○	さらに重度化が予想される中、職員は常に利用者を目に向け、耳を傾け、心を察知することに努める必要がある。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、「業務の流れを優先しない」を合言葉にして、利用者のその日の体調やその人がしたいと思っていることを大切にしている。自分らしい暮らしの実現で、本人の満足感が引き出されることを目標にしている。	○	その人らしい暮らしとは一律ではなく、個人個人のペースがあり、生活パターンがある。職員はその辺の理解をした上で、可能な限り、個別な対応に心がけて行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合わせた服装や身だしなみを支援しているが、その際、本人のプライドを重視している。理美容に関しては、本人、ご家族の意向を尊重している。当施設に出入りするボランティアには、理、美容の両方があり、本人が自ら選択している。また、髪型などについては、本人が理美容師と相談している。	○	重度化した利用者には、此処で過ごした過去の習慣を職員が把握して、出来るだけ、本人らしさを損ねないお洒落を継続させる。

グリーンクリスタルTWO

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の力量を判断し、食事に関する一連の作業のどこかに関わられるようにしている。野菜の下拵えから、何ができるのか期待したり、食べることにのみに参加出来る人もいる。出来上がった食事を、利用者、職員が共に味わい、食す。食事に関する会話は勿論だが、その時々に出されたテーマで食卓が賑わうこともある。	○	食事は、利用者にとって最大の楽しみであり、本人の力が発揮出来る場所の一つでもある。重度化して食事摂取に介助を要する人でも、最初は自分の手で食べ、味わえる、そして「美味しい」と感じてもらえるような支援を続けて行く。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	病気があって止められている人以外は、嗜好は自由としているが、実際にはタバコを吸う人も、日常的に飲酒する人もいない。コーヒー、ジュース、グルコサミン飲料など、個人で楽しめるようにしている。また、季節の行事には、ワインやシャンパン、日本酒などを用意して楽しんでいる。	○	朝の少し甘いコーヒーはどの利用者も「美味しい」と言って飲み干す。水分摂取の足しにもなり、この習慣は継続して行く。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿に関しては、個々の力量に配慮して、先ずは排尿パターンを調べた上、トイレで気持ちよく排泄できるための誘導を主にしている。重度化、あるいは病気のため、カテーテル留置を余儀なくされている人もあり一様ではなくなっている。排便に関しては、その把握に努め、排便困難を来たす前に本人に合った対処をしている。オムツを使用している人に対しても、兆しに気付いたら、トイレに坐らせるということが基本である。	○	排泄パターンを調査した後、職員はカンファレンスを実施し、パターンに合わせたトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の爽快さが、実感出来る支援を基本としたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を考慮し、入浴の声かけをしている。本人の希望を取り入れ、「朝の一番風呂」「夕方」等の支援をしているが、重度化した利用者に対しては、複数の職員の手を要するため、手のある日勤帯に行い、入浴中の事故を防いでいる。入浴剤の香りを楽しんでもらったり、職員とのコミュニケーションの場としている。	○	当ホームの浴槽は、一般浴槽であり重度化した利用者の利用が難しい。複合施設内の介助用浴槽の借用で、ゆっくり入浴出来るようにと、交渉が進んでいる。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンの把握に努めている。たとえ、昼夜逆転があったとしても、本人の生活パターンの中で睡眠がとれ、本人に満足感があれば、いいと考えている。先ずは、日中の活動を活発にし、適度の疲労感から自然に眠ること基本にしているが、不安で寝つけない場合は、職員は寄り添い、時には添い寝をすることもある。	○	睡眠導入剤=罪悪と考えるものではなく、本人が夜起きていることを辛いと感じていて、日中の活動が全くストップしてしまう場合には、主治医と相談の上、アドバイスを受けて行きたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中にメリハリをつけ、本人の得意分野で、活動できる支援をしている。その中には生活歴を活かし、食材の伝票合わせを得意とする人もいる。役割の遂行に当たっては、いつも肯定的評価を行い、本人の満足度を高める工夫をしている。季節の行事を共に企画して楽しむことや、利用者同士で雑談したり、歌を唄うことは、ここで暮らす利用者の大切な気晴らしとなっている。	○	“昔取った杵柄”を活かせる支援は本人のより大きな満足感につながる。介護計画の中にも取り入れて行く。

グリーンクリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力量に合わせ、管理できる範囲の金銭所持を支援している。中には、その所持金を入浴の際にチップとして使う（元ホテルマン）。ホームの外出は、買物の機会でもある。紛失や、しまい忘れに対しては、ご家族の理解を得ている。	○	近所に商店がなく、日常的な買物支援が行えない状況であるが、本人の買物について、外出行事以外にも、ご家族の協力をお願いしたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	当グループホームの周囲は景観に恵まれ、絶好の散歩コースになっている。歩くことの大切さを唱える利用者は毎日でも、その他の人も体調に合わせて、戸外の散歩を楽しんでいる。	○	立地上、散歩以外に日常的な外出機会がないのが実情である。職員は知恵を出し合って、行き先を確保して行く必要がある。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居時の情報収集で、行きたい所、好きな場所などを把握している。家族の協力を得て、墓参り、外食、自宅に帰るなどが実施されている。ホームとしては、年間行事計画の中に外出を組み入れ、職員、利用者、ご家族共に楽しめる企画を考えて実施している。	○	なかなか個別対応が困難な状況ではあるが、誰でもが自分の希望を言い出せる支援に努め、出来る限り（ご家族の協力を得ても）実行に移す。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談の上、本人の要望に答える支援を心がけている。ご家族からかかってきた電話を取り次ぐこと、利用者一人一人が家族宛ての賀状を書くこと、届いた便りを一緒に読み、共に喜ぶことなどを行っている。	○	重度化した利用者の年賀状は職員が代筆している。今後も本人とご家族を繋げる手立てとして継続する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	何時でも時間が取れた時、気軽によって欲しいとご家族には伝えている。本人との団欒を楽しめるように、場所を用意したり、他の利用者とのふれあいを楽しんでもらうなど、居心地良く過ごしてもらえるように努めている。	○	重度化して、訪問者が認識できない利用者に対して、職員はさりげないフォローを加え、訪問がこれで立ち消えにならないようにして行く。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを、職員全員で確認している。また、これまで身体拘束は行っていない。機会を捉えては勉強会のテーマとし、身体拘束は行わないことを再確認している（施錠、本人の意思を無視した誘導、行動制限を含め）。	○	今後も勉強会を続ける。

グリーンクリスタルTWO

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を含め、4ヶ所の出入りできる場所がある。それぞれ、センサーを設置しているものの、施錠は夜間のみである。入居者一人一人の行動パターンを把握して、外出の可能性に対しては、センサー音と細心の注意を払って見守りしている。	○	離設のリスクに対し、警察、消防、市役所の協力を依頼することや、複合施設の他事業所の理解を得るようにして行く。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は本人のプライバシーを尊重しながらも、常に本人の存在と安全を確認している。日勤帯は、職員間の役割分担や連携を上手くすることで安全確保を、夜間は定時の巡視の他にセンサー音などで安全を確認している。死角の多い当ホームでは、記録や見守りの場所をその時々に変えるなどして、緊急時に対応出来るようにしている。	○	利用者の重度化が進む中、安全確認がより難しくなっているが、職員の意識と工夫により、安全確保に努めたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の状態を把握した上で、使用、管理が可能な場合は、居室内や使用場所に置いている（安全かみそり、電気かみそり、石鹸類、爪切りなど）。包丁などの刃物は所定の場所へ、ライター、アルコール、液体洗剤類は施錠できる場所へと整理整頓を心がけている。利用者が服用している薬の管理は、事務室で行っている。	○	物品の安全管理は必要だが、極端な管理は不必要。職員は、日々、状況を見極めて対処する。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の行動パターン、状況の変化などを的確に把握し、それぞれに合った事故防止策をカンファレンスしている。事故事例に際しては、インシデントレポートを作成し、スタッフ間で対応策や解決策を話し合い再発防止に繋げている。消防、離設、緊急時の対応マニュアルの作成で、緊急時に備えている。	○	インシデント報告書が提出され、職員間で検討した事例を勉強会の資料とする。また、インシデント報告書が提出され、カンファレンスしたことを介護計画に活かす。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が普通救急救命法を履修していたが、今年に入り職員の異動があり、数名の未履修者がいる。利用者の急変については、ホーム内の看護師による勉強会が実施されている。また、グループホーム緊急時の応援体制も整備されている。複合施設にはAEDの設置もあり、使用方法の講習会も実施されたが、定期的な実技の実施には至っていない（応急手当を含め）。	○	普通救急救命法の受講、応急手当や初期対応の訓練を、グループホーム年間行事に繰り入れる。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	複合施設としての災害対策マニュアルに従い、各種点検や防災訓練を実施しているが、グループホーム利用者の特性もあり、ホーム独自の対策の必要性も感じている。	○	利用者一人一人の避難方法を明記（担送、車椅子、護送、見守り独歩など）する。複合施設内の他事業所頼みに終わらない独自の避難誘導方法を検討する。地域の人との連携について、具体的に体制作り（協力依頼など）をする必要がある。

グリーンクリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状況の変化については、随時、ご家族に報告を入れている。認知症に伴うリスクについては、入居時や面会時、家族会などの機会を捉えては説明し、理解が得られている。利用者の安全確保には最善を尽くすが、リスクにばかり焦点を合わせることなく、本人の望む生活を全うするための支援を行っている。	○	ご家族とは機会を捉えて、話し合いを続けて行く。本人が望んでいる（望んでいるであろう）生活の継続についてご家族と共に支援して行く。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックをはじめ、顔貌、食欲、活気などを観察し、記録することで、異常の早期発見に努めている。介護士、看護師、主治医は情報の共有に努め、速やかな対応を心がけている。	○	職員は根拠に基いた観察力、判断力、知識の習得に努める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心に薬の管理を行っている。利用者一人一人の薬が一覧でき、処方の変更される場合は、目的、副作用などについて、看護師から説明される。服薬に際しては、本人の力量を配慮するが、必ず、確認を行っている。急性疾患の際の投薬に関しては、服薬による本人の変化を見逃さず、副作用も含め、記録している。	○	薬の管理はこれで万全ということではなく、投薬に際しては人間違いのないよう、くれぐれも注意し、出来れば複数の確認が望ましい。また、職員は薬に対しての知識を持つだけに止まらず、副作用についても学んで行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から、各食事には野菜を多く使い、繊維質が摂れるよう工夫したり、牛乳、ヨーグルトを間食に使い、水分多め摂取を勧めるなど、便通を整えるための配慮をしている。重度化した人の場合は、入浴時にシャワー用車椅子に腰かけた際に、腹部のマッサージと腹圧により、排便を促している。	○	利用者個々の体質や習慣、希望も考慮して、場合によっては緩下剤、浣腸も使用するが、基本は自然排便である。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	力量に応じて、歯磨きや義歯の手入れの声かけを行い、口の中の汚れや、口臭を防いでいる。重度化した利用者に対しては、日常的に口腔ケアを行っている。その際、口内の異常（出血、義歯の不具合）に注意し、異常時は、速やかな対応を心がけている。	○	口腔リハビリ（一部）なども日常生活の中に取り入れて見たい。残歯の治療や義歯の調整に際しては、ご家族と相談の上、希望に沿うようにして行く。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の体格や病状に合わせて、栄養バランスを考慮した食事の提供を行っている。重度化により、摂食障害が見られる利用者に対しては、主治医と相談の上、高カロリー流動食なども利用している。水分については、カテーテル留置者はもとより、一日を通して声をかけ、水分摂取支援を行っている。また、何時でも水分摂取が出来るよう、ポットを用意している。	○	重度化した利用者の中には、必要な栄養摂取が困難になっている人もある。高カロリー流動食は、人によっては嫌う人もいる。本人が食べられる（食べたい）ものを、ご家族と相談の上、食べられるようにする。

グリーンクリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	複合施設全体の取り決めの他に、グループホーム独自の感染症対策マニュアルを作成している。マニュアルには、発生時の対応が明記されており、感染症流行時期は勿論のこと、何時でも職員が目についたら、学習出来るようになっている。職員は日頃から、感染防止に努めている（食前の手洗い、外出後の嗽、手洗いの実施など）。	○	インフルエンザの予防接種は継続して受けられるようにする。複合施設であるから、他事業所と連動して情報を共有し、感染症を防止するように努める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の管理担当職員を中心に食材や調理器具の衛生管理に努めている。冷蔵庫の整理整頓、新鮮かつ安全な食材の発注を毎日行っている。	○	今後も食中毒を防止するため、調理器具などの衛生管理や、新鮮かつ安全な食材の購入に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関周囲には、草花を植えたプランタを置き、観葉植物や生花を飾るなど、外来者に好感を持ってもらえるよう工夫している。利用者が外出の際、ふと立ち止まることを期待して「一声かけてね」のメッセージが添えられている。また、靴の履き替えが安全であるように、木製ベンチを設置している。	○	今後も職員や利用者の五感を活かし、親しみやすく安心して出入り出来る玄関周りを工夫して行く。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間作りに心がけている。大きな窓はブラインドで太陽の光を入れたり遮ったりし、適切な採光に努めている。また、観葉植物を多く配置して、癒しの空間になっている。厨房からの匂いは食欲を感じさせるが、不快な臭いに対しては、こまめにチェックして、排泄物、生ごみなどは速やかに片付けている。壁面を利用して季節の作品を展示、季節の花を活けるなど、季節感を取り入れる工夫をしている。	○	利用者と共に、居心地良い共有空間作りをして行く。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、テレビを観たり、談笑できるソファを置き、思い思いに過ごせる空間になっている。大抵は誰かがいて、賑やかに過ごしている。廊下に置いたソファは静かに過ごせる場所であり、一人だったり気の合う同士が、昔話を楽しんだりしている。ソファの近くに観葉植物や足踏みミシンを置き、落ち着いた気分になれる工夫をしている。	○	これからも利用者と相談しながら、家具類の配置を変えて、気分も変えるなど、おちついて過ごせる居場所作りを考えて行く。

グリーンクリスタルTWO

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居に際し、ご家族には、使い慣れた家具類、好 みの品を用意して欲しい旨伝えている。本人が落 ち着いて過ごせる空間になっていて、家族の写真 を壁面に飾り、眺めては懐かしんでいる人もあ る。	○	重度化により、懐かしい家具や品が、転倒のきつ かけになることもある。居室のカーテンや壁面利 用で本人が和める居室作りを考える。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	利用者の意見を聞きながら、温度調節をこまめに している。居室は本人の希望により、エアコンを 入れたり、ドアを開けるにとどめることもあ る。換気は気候の良い季節は窓を開けて自然の空 気を取り入れるが、夏冬は全自動に任せている。	○	換気や温度調節等は、利用者の意見を聞きながら こまめに行う。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム全体はバリアフリー、廊下には手摺りがついて いて、安全に移動が出来るようになっている。ベッド からの移動が困難な人、落下のリスクがある人には、 安全のためベッド柵を設置している。浴室もリスクを 避けるため、浴槽に手摺りを設置している。歩行不安 のある人はご家族と相談し、シルバーカーを用意し てもらい、歩行練習用にも使っている。	○	利用者の変化により、居室にも手摺りを設置する 必要がある。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	「この道を下りるとすぐ家」と言って出て行く人とは 一緒に確認。ベッドが止まらず（車と認識）交通事故 になると不安がる人にはベッドの足に車止めを置き 「心配ないよ」と対応する。職員は本人の混乱の把握 に努め、対応方法については、常にカンファレンスを 行い、まちまちの対応で更に混乱を来たさないよう にしている。	○	今後も常にカンファレンスを行い、個々の混乱の 対応について、情報交換して行き、少しでも早く 混乱が軽減出来るように努める。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	冬季を除き、季節ごとの花が楽しめるよう、種を 蒔いたり、苗を植えている。初夏には茄子、きゅ うり、トマトの苗を植え、草取りや水遣りの後、 収穫を楽しんでいる。小春日和には、ベランダに 椅子を出し、歌を唄い、春には、摘み草の保育園 児と交流する。	○	その時期その時期のベランダや外回りの活用法を 探り、楽しみ方を工夫する（お茶会をしたり、歌 を唄ったり）。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

グリーンクリスタルTWO

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

豊かな自然に囲まれた環境の中で、「共に暮らす幸せ」「心安らかに暮らせる日々」を目指すことを理念に掲げ、ご利用者が『生き活きと生きる』ことを支援しています。ご利用者の視点に立ち、個々のご利用者を十分に理解して、スタッフ全員で個別の支援を組み立てています。医療との連携の体制をつくり、併設の複合施設の利点を活かしていくことによって、可能な限り最期までグループホームでの生活を支えたいと考えています。最近、ご家族や関係機関の協力をいただきながら、看取りまで行うケースが増えてきています。今年度からショートステイ事業を加え、通所介護も導入に向けて検討中です。地域の皆様に理解され、協力いただきながら、地域のニーズに応えていけるグループホームでありたいと思っています。